



復興・防災学習に有効 盛岡・渋民中校長 宮古で講演

復興・防災学習などにプラス日報を積極活用している盛岡市・渋民中の小松山浩樹校長は宮古市で講演し「いわての復興教育」の実践や可能性、プラス日報の活用法を説いた。参加者は復興教育の重要性を再認識し、プラス日報の効果的な使い方を学んだ。

講演会は、宮古ユネスコ協会と日本教育会県支部宮古地区会が8月中旬に開き、同地区の教育関係者ら約90人が参加した。

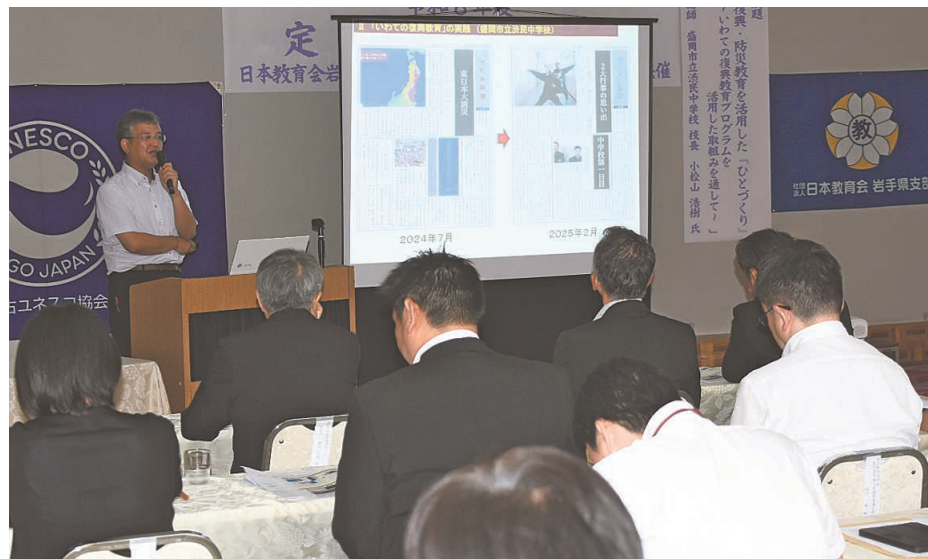
小松山校長は、岩手山に近い渋民中で行う防災学習を例に、カリキュラムマネジメントや大学教授らとの連携、学びのアウトプット

の重要性を説いた。「過去から学び、今を見つめ、未来をつくる視点が大切で、人づくりにつながる」と強調した。

プラス日報の活用については、1年生の復興・防災学習を例示した。▽岩手日報社の出前授業▽記事検索機能を使い訪問先や講話者を調べる事前学習▽新聞製作ツールで発信—という流れを説明。特別支援学級の生徒も積極的に取り組んだことを紹介した。

田老一小の八木沢江利子校長は「効果的な使い方や特別支援における有効性を学んだ」、川井小中の似内織江校長は「情報収集や学びの発信が主体的にできる」と発展的な活用を見据えた。

講演は「復興・防災教育を活用した『ひとづくり』～いわての復興教育プログラムを活用した取り組みを通して」と題し、幅広く話題を提供した。心のケアの手法を生かした生徒のストレス状態の可視化などの解説もあり、青笹光一・宮古地区会長は「平常時に行う復興教育の手だてを共有できた。各校に広げてほしい」と期待した。



特別支援の生徒が製作した復興防災学習の紙面を示し、アウトプットの重要性を説く小松山浩樹・渋民中校長

授業導入 地域全校で 葛巻町教委 教員向け研修会

葛巻町教委は、町内の小中学校に本年度赴任した教員を対象に、プラス日報活用研修会を開催した。参加者は、新聞を読んだり過去記事を調べられる機能や、新聞製作ソフトの使い方、実践事例を学んだ。

研修会は7月末に町役場で開かれ、オンライン2人を含

む計8人が参加。岩手日報社の担当者による説明を聞き、2024年1月に掲載された市町村集中報道「フォーカス」の葛巻特集を検索した。

実践事例として、家庭で新聞を読んで意見をまとめる仁左平小（二戸市）の週末課題、故事成語が現代社会でどう使



プラス日報の機能や授業での実践事例を学んだ研修会

われているかを調べる飯豊中（北上市）の国語の授業などを紹介。活用法をイメージした。

新採用の葛巻小・山本心海教諭(22)は「防災・復興教育で、東日本大震災の資料をどのように集めるか考えていた。信頼できる記事が使えるので、安心して学習材をつくれる」と利点を述べた。

江刈中・熊上潤教諭(46)は「新聞を読むことで、ニュースを具体的に身近なものとして感じられる。担当する体育でもスポーツの記事を読ませ、感想をまとめさせたい」と構想を練った。

葛巻町は、学校教育指導計画にプラス日報の活用を盛り込み、情報活用能力や学力向上に取り組む。石角則行教育長は「新聞は各教科に通じる読解力や自ら課題を見つけ解決する力を育む。具体的な使い方や実践例を各校に広げ、授業に生かしてほしい」と参加者を見守った。